



風船にのせて

今月3日(火)は、市内の人権擁護委員さん16名をお招きして、人権集会を行いました。

集会では、各学級のこれまでの取組を振り返り、これからどんなことを大切にして過ごしていくかをまず発表しました。次に、人権擁護委員さんの紙芝居がありました。主人公は、周りの人の気持ちを大切にして行動する少年です。しかし、大切にすあまり、「嫌だな」と思うこともグッと飲みこんで我慢してしまいます。年齢を重ねればそういうことも必要になってきますが、我慢ばかりしては自分が不調をきたします。主人公は友達に嫌われたくなかったけど、勇気を出して「ぼく嫌なんだ」と伝え、分かり合うことができました。

このような場面は、子どもたちの日常にいつも存在します。私たち大人ができることは、気付いて声を掛けてやることです。今学期、本校では子どもたちに少しでも寄り添えるようにと、毎月初めに面談週間を設け実施しています。全てのことを話してくれるわけではないかもしれませんが、続けることで相談しやすい環境を整えられたらと思います。

集会の最後、人権擁護委員さんが二つのことを伝えられました。

- ① 決して一人で悩まない。
- ② 差別に気づく心を育てる。

お子様のことでお気付きがありましたら、いつでも学校に御相談ください。

集会後は、3年生が育てた人権の花「ひまわり」の種を付けた風船を飛ばしました。当日のうちに、大分県豊後大野市の方から風船が届いた旨の御連絡があり、子どもたちに伝えると大喜びでした。人権を大切に思う心が、日本中に広がるといいですね。

今後は、たて割り班遊びを6年生が計画してくれる予定です。

持久走大会

4日(水)は、雨天のため延期していた持久走大会を実施しました。延期になったので応援の方は少ないかもしれないと心配していましたが、山陰保育園・小林保育園の園児さんを含め、80名以上の方が応援・運営に駆けつけてくださいました。ありがとうございました。

子どもたちは、たくさんの方の応援を自らの力に変え、ゴールを目指していつも以上に頑張っていました。

開会式では、「持久走が苦手でも構わない、イヤだなあと思っていい。でも、最後まで頑張る人、頑張ろうとする人が素晴らしい。そんな人たちを、先生たちは一生懸命に応援している。」という話をしました。

きっと、子どもたちは家を出る前に、持久走大会のことを話しているだろう。そして、親は温かくも力強い言葉をかけて送り出しているだろう。

私たち教師は、そのことを十分に理解し、一人一人の表情を見ながら掛ける言葉を選んでいく。

それぞれが、それぞれの思いをもってスタートラインに立つ。

きついな、苦しいな、そんな思いをもちながらも、家族や周りの人の応援が背中を押し、いつも以上に力が入る。

ゴールしたあとは、みんなが笑顔で迎えてくれる。やり遂げた達成感と安堵感が、疲れた体と心を包み込む。

家に帰ると、また家族との話に花が咲く。

私たち人間は、言葉を媒介として心を伝え合い、自らの存在価値を確かめ、高めていく。

子どもと向き合う中で、言葉のもつすばらしさをいつも感じ、その力の偉大さを知ります。